



NEWS

Februar 2023

No. 160

2019年11月1日発行/隔月発行11月号 第1巻第4号-通巻4号

本号より奇数月発売!! アマチュア無線の最新情報を発信

HAMworld

2019 隔月刊 11月号
ハムワールド

特集 24時間楽しむ7MHz
人気HFバンドをディープに運用!



多機能が持ち運べる
斬新なスタイル!
アイコム IC-705
HF+50/144/430MHz オールモードポータブル機

新製品!!
ハムフェア
で
発表

ハムフェア2019速報!
無線メーカー各社の新製品をまるごと紹介

アルインコ 免許不要のデジコミ無線
NEW MODEL DJ-PV1D 3Dプリンターで
紛失した操作キーを作る

隔月刊化記念! 豪華読者プレゼント

Mitteilungsblatt der Gruppe JAIG

www.jaig.de
www.jaig.jp

JAIG-Daten

02.2023

JAIG-Clubstationen:

Rufzeichen	Standort	Verantwortlich
DLØDJF (#101)	Muenchen	DF2CW (#18)
DKØDJF (#50)	Muenchen	DF2CW (#18)
JL1ZYZ (#51)	Yokohama – Japan	JA9IFF/1 (#21)

NET-Frequenzen: Sprache: ja. = japanisch, dt. = deutsch, eg. = englisch

NET Name	Sprache	Freq.(MHz)	Mode	Zeit (UTC):	Tag	NET-Kontr.	Sonstiges
JAIG-NET	ja. dt. eg	21.370±QRM	SSB	08.00	Sonntag	JA1DKN	
JAIG-NET	ja. dt. eg	14.310±QRM	SSB	08.30	Sonntag	JA1DKN	Falls 15M-Band nicht zustande kommt
JAIG-NET	ja. dt. eg	18.140±QRM	SSB		Sonntag	JA1DKN	Ersatzfrequenz
JANET	ja. eg	21.370±QRM	SSB	22.00	Samstag		
JAG-NET D-Star	jp. dt. eg.	Ref. DCS002Q	DV	09.00	Sonntag	JA1IFB	

JAIG D - Star Net SKD (Aufruf reihenfolge, 呼出し順)

JST	26. Febr.	05. Maerz.	12. Maerz.	19. Maerz	26. Maerz	02. April	09. April	16. April
18,00	W	W	W	W	W	W	W	W
	JA0	DL	JA1	JA2	JA3	JA6	JA8	JA0
	DL	JA1	JA2	JA3	JA6	JA8	JA0	DL
	JA1	JA2	JA3	JA6	JA8	JA0	DL	JA1
	JA2	JA3	JA6	JA8	JA0	DL	JA1	JA2
	JA3	JA6	JA8	JA0	DL	JA1	JA2	JA3
	JA6	JA8	JA0	DL	JA1	JA2	JA3	JA6
	JA8	JA0	DL	JA1	JA2	JA3	JA6	JA8
ca 18,35	JA5	JA5	JA5	JA5	JA5	JA5	JA5	JA5

Verbindungsfrequenz

bei JAIG-Jahrestreffen und bei HAM-Radio	144.575 MHz	FM-Simplex
--	-------------	------------

JAIG-Home Page

deutsch	http://www.jaig.de
japanisch	http://www.jaig.jp

JAIG-INFO via POST

JAIG-INFO aller Art anfordern bei	IKI Kunihiko DF2CW Hoenlestrasse 8 D-80689 Muenchen Germany
-----------------------------------	--

JAIG-Diplom Antrag

In Deutschland (und Europa)	Hans GRAF DF2MC Jacques Offenbach Str. 33 D-83395 Freilassing
In Japan	NAKAJIMA Yasuhisa JA9IFF Yokohama-shi, Hodogaya-ku, Sakaigi-Honcho 68-2-1104 Kanagawa 240-0033 JAPAN

Spenden: bitte Hinweis in unseren News Nr. 97 beachten! Kontonummer wird auf Anfrage (per e-mail oder Telefon) mitgeteilt.

Liebe JAIG Freundinnen und Freunde, liebe JAIG-News leser.

Hier sind die ersten JAIG News des Jahres 2023.

Vor etwa drei Jahren im Jahr 2019 erhielt ich eine Anfrage fuer einen Artikel ueber die JAIG-Gruppe von unserem Mitglied OM Koiso (#601JH1UNS), der in der Redaktion des japanischen Amateurfunkmagazins „HAM world“ taetig ist. Daher habe ich, DF2CW, ueber die Geschichte und Entwicklung der JAIG-Gruppe geschrieben, und OM Koiso hat sie unter dem Titel **"JAIG's 40 Jahre"** zusammengefasst und in diesem "HAM world" Magazin veroeffentlicht.(s. Deckblatt)

Daher wollte ich es als Geschichte der JAIG-Gruppe bekannt machen und uebersetzen, damit die deutschen Mitglieder davon erfahren. Wir haben die Erlaubnis von OM Koiso erhalten, diesen Artikel zu veroeffentlichen. Lediglich der Haupttext wurde ins Deutsche uebersetzt, auf Erlaeuterungen wie eingefuegte Fotos wurde verzichtet.

Am Ende diesen News haben wir die Rufzeichen-Liste unserer Mitglieder und den Veranstaltungsort des JAIG-Treffens zu Ihrer Information angefuegt.

Obwohl die JAIG-News von allen Mitglieder gelesen werden sollen, koennen wir sie nicht an alle Freunden senden, da keine E-Mail-Adressen bekannt sind.

Derzeit hat die Redaktion 144 Mitglieder mit JA-Rufzeichen und 98 Mitglieder mit DL-Rufzeichen herausgegeben. Ferner werden die News von Nichtmitgliedern gelesen, 45 in JA und 39 in DL. (Stand Ende 2022)

JAIG News werden auch auf unseren Homepages www.jaig.jp und www.jaig.de veroeffentlicht. Es gibt jedoch Leute, die von dort herunterladen, aber wir kennen die Anzahl nicht. Viel spass beim Lesen !

JAIG News Redaktion

JAIG ニュースをお読みの皆さん、2023 年最初の JAIG ニュースをお届けします。

今から 3 年程前の 2019 年に私たちのメンバーで、日本のアマチュア無線雑誌「HAM world」誌の編集部でご活躍の小磯さん(#601JH1UNS)から JAIG グループについての記事の依頼がありました。そこで私、DF2CW は JAIG グループの生い立ちとその発展について書き、それを小磯さんは「**JAIG の 40 年**」と言う表題で纏め、この「HAM world」誌に公開してくださいました。(表紙をご覧ください)

そしてそれは既に多くの方々を読まれていますので、今更、と思われる方もおられると思います。しかし JAIG グループの記録として JAIG ニュースに転載して、そしてドイツのメンバーにもご理解いただくためにドイツ語翻訳も含めてここに纏めました。

この記事の掲載のあたっては、小磯さんのご了解を得ております。そして小磯さんが纏めてくださったレイアウトをそのままコピーして掲載させていただきました。転写に際して、私の持っている設備では、これ以上鮮明にはできませんでしたので、シャープな画像をお希望の方は、本誌のバックナンバーをお求めください。

またドイツ語への翻訳は本文のみとして、挿入された写真などの説明は省略いたしました。

尚、巻末には私たちのメンバーの「コールサインリスト」と「JAIG ミーティング開催地」を掲載しましたので参考になさってください。JAIG ニュースの発行は建前としては全員に読んでいただくことにありますが、電子メールアドレスが不明の方々にはお送り出来ておりません。現在編集室から発行数は、JA のコールサインをお持ちのメンバーは 144 名の方々、そして DL のコールサインをお持ちのメンバーは 98 名の方々となっています。しかしメンバー以外の方々にも読んでいただいておりますが、それらの数は JA では 45 件、DL では 39 件となっています。(いずれも 2022 年末現在) JAIG ニュースは私たちのホームページ www.jaig.jp および www.jaig.de でも公開されていますので、そこからダウンロードをされているの方々もおられますが、その数の把握はしておりません。

それでは JAIG グループの生い立ちをお楽しみください。

JAIG ニュース編集室

ドイツ在住日本人ハムクラブ

JAIGの40年

→今年フルダで開催されたJAIGミーティングの集合写真。参加はドイツ各地からはもとより、JAとHC(エクスアドル)からもありました。



Kunihiko Iki
DF2CW/JA7HM

ここで、JAIGグループについて紹介させていただきます。

グループ名のJAIGとは、Japanese radio Amateurs In Germany、すなわちドイツ在住の日本人ハムクラブの略称です。

誰でも長く外国に住むようになると、同胞の友を得る方法を考えるでしょう。あるいは生活経験があるものは、新しく来た友のために援助を惜しまないのは自然の成り行きではないでしょうか。それはアマチュア無線の世界でも言えることでしょう。グループの設立は、この精神から始まったのです。

JAIGグループは、すべての人達に門戸を開放しています。国籍、言語、宗教、肌の色、もちろん政治とは無関係です。偏見の塊とも成りうる特定のコミュニティを作ることも、拒否しています。私達共



↑JAIG設立から40余年、東独の西独加盟は1990年。今ではJAIGは日本人に限らないメンバーによる友好親善のグループとして、国籍の枠を超えて活動している。

通のアマチュア無線という趣味がもて知り合った人たちが、お互いにふれ合い、その輪が広がったらそんな嬉しいことはないでしょう。

「会話」、それは私達人間の特技です。それがあってこそ、お互いの理解が深まり、信頼関係を作ることが可能になります。

JAIGの生い立ち

まずはJAIGの生い立ちです。

1970年代は日本企業がドイツに進出し、それに伴い多くの社員が派遣されました。その中には日本のハムのライセンス保持者もいました。

当時の日本は、外国人ハムが日本国内で無線局を運用することには、とても閉鎖的でした。一方ドイツは包括免許で、しかも日本のライセンスを認めていましたので、こちらでの再試験は不要でした。しかしコンピューターのない時代で、お役所への書類もドイツ語だったものですから、その免許取得を手伝っているうちに交流の輪が広がって行ったのです。

●クラブ設立に向けて

1980年頃になってから、私はそれまで集めた資料を基に名簿を作成して、連絡を取り合いはじめました。インターネットのない時代でしたから、すべてが郵便による、今では考えられないような悠長な時代でした。その頃に発行したニュースは〈お知らせ〉程度の内容で、タイト

ルも付いていませんでした。しかしそれが縁で「それでは皆で一度集まってみましょう」ということになり、1984年2月のとても寒い冬でしたが、地理的にはドイツの中央に位置する(当時はまだドイツが統一されていませんでしたので西側のドイツです)コブレントツの近くのビンニゲンというワインの町に集まりました。このときの様子は、ドイツ海外放送(ドイツチェヴェレ短波放送)の日本語番組で全世界に放送されました。

この集まりのときにこのグループに名前を付けましょうという提案で考えられたのが、この〈JAIG〉という名前でした。これは〈Japanese radio Amateurs In Germany〉の略で、名付け親は日本語を流暢に話すブツさん(DJ9WH)でした。

初期の時代はメンバーに日本人が多かったため、このような名前になっています。しかし現在では、ドイツ人ハムのメンバーもたくさん参加し、日本人とほぼ同数となりましたが、象徴的な名称として変更はしませんでした。

ちなみにブツさんは、1回目のこのミーティングに出席した、ただ一人のドイツ人でした。

●クラブの行動原理

今回この原稿を書くにあたり、もう一度過去の『JAIGニュース』を読み返してみました。その35号には10回目のJAIGミーティングの報告として、JAIGグループの



メンバーであるエドガーさん (DK9UA) が次のように書いていました。

「誰かがアイデアをもって、それが良いことと信じれば、それを行動に移します。そして他の人たちもそれに同意して一緒に行動するでしょう。それが10年後20倍にもなれば、大変良いことであったことは言うに及びません……」

2019年8月の時点で会員番号は600番を超えました。これは「大変良いこと」であった成功の証として、受け留めてよいと思います。

しかし創立以来40年以上も過ぎますと、メンバーの高齢化が進み、サイレントキーのお知らせを発行する機会が増えたことは大変残念に思います。

JAIGグループの活動

JAIGグループの活動について触れる一環として、まずはネットQSOについて書かねばなりません。

●JAIG NET

HFでは五十嵐さん (JAIDKN) の素晴らしいネット・コントロールにより、毎週日曜日、日本時間の17:00から21.370 MHzで (コンディションに恵まれないときは14.310MHzにQSYをして) ネットQSOを行っています。主にJAとDLとのQSOですが、コンディションが良いときにはワールドワイドにQSOができます。

また、2016年9月頃から、岡野さん (JFICXH) の懇切丁寧なご指導により、D-STARによる国際的なQSOネットを組むことができるようになりました。

これも毎週日曜日、HFのネットが終了した後、日本時間の18時からDCSリフレクター上でネットQSOをしています。このネットのコントロールは福田さん (JA1IFB) が自発的に担当されています。

この近代的なQSO形式は、インターネットを介して行い、常時メリット5で快適に話し合うことができ、昨今のHF帯のコンディションが良くない中で、このモードに挑戦される方が増えて、毎週大きな賑わい見せるほどに発展しました。

JAIG Treffen 2010 in Osaka



Eye-ball QSO in Tokyo



Im Ueno Seiyoken am 3. April 2010

↑写真上: 2010年に大阪で開催されたJAIGミーティングの記念写真で、大阪国際交流センターで開催されたもの。ドイツからの参加者と共に大阪の方々はもとより東京から来られた方もいました。写真下: 大阪から東京に移動して上野の精養軒で開催されたアイボール・ミーティング。ここにはわざわざ大阪から来られたOMもいました。

●ニュースの発行

私達のグループJAIGは、不定期ですが年に4回くらいの割合で「JAIGニュース」を発行しています。創立当時はPCもインターネットも普及していなかったため、今では考えられないことですが、手書きのニュースをコピー機で印刷して封筒に入れ、メンバーに郵送していました。JAIGニュースは2019年8月現在、141号まで発行されました。

JAIGニュースはドイツの事務局 (筆者担当) で、日独両語に編集して電子メー

ルで発行しています。それと同時にこのニュースは、メンバー以外の方々にも読んでいただきたいので、私達のホームページで一般公開していて、

<http://www.jaig.jp>

<http://www.jaig.de>

からダウンロードすることもできます。

ちなみにホームページの管理は、日本では中嶋さん (JA9IFF) と大堀さん (JR0DLU)、そしてドイツではトーマスシュバントさん (DH7TS) が担当しています。

その他にグループの別の情報伝達の手段としてメーリングリストを持ち、大堀

ドイツ在住日本人ハムクラブ

さん (JR0DLU) が管理しています。

●ミーティングを開催

また年に1回、JAIGグループのミーティングも開催されています。これはドイツ国内のどこかで、メンバーの協力を得て企画されますが、今年2019年で35回を数えるに至りました。2019年のミーティングはヘッセン州のフルダで開催されました。

2000年、2004年、それに2010年にはミーティングが日本で開催され、多くのドイツのハムが訪日して日本のメンバーと親交を深めたことは、思い出深いものがあります。

●アワードの発行

1990年以來「JAIGアワード」も発行しています。このアワードは2つのクラスがあって、クラスIは主にHF帯にQRVしているハムを対象に、そしてクラスIIはVHF以上の周波数を利用しているハムを対象と考えました。

【クラスI】

クラスIとは、DLとJAの局それぞれ5局と交信してQSLを得る。ただしプリフィックスが異なること、そしてその交信局には1局JAIGメンバーが含まれていることが必要です。

【クラスII】

クラスIIは、コールサインのサフックスで“DL JA FREUNDSCHAFT”と組み合わせる。その中に1局はJAIGグループのメンバーを含むこと。SWLにも同



↑JAIGが発行する日独友好アワード。タイプIとタイプIIの2種類が発行されている。

様の条件で発行しています。

このアワードマネージャーは日本では中嶋さん (JA9IFF) が、ドイツではハンスさん (DF2MC) が担当しています。

●会の運営

これを読んでお分かりのように、JAIGグループはメンバーの方々が自発的に担当部署を引き受け、グループを盛り上げてくれていますので、その運営は互助の精神で進んでいると思います。

JAIGグループには会費はありません。運営の経費はすべて寄付で賄われています。

JAIGグループの本来の目的は、メンバー相互間の親交を深めることにあり、そのため「あなたの近くにもJAIGのメン

バーが住んでいます」という副題で、メンバーのQTHリストを作成して、希望者に配布していました。これは横のつながりを作ってもらおうという目的でした。しかしこれには個人情報が含まれていますので、現在では発行を控えました。

ただしJAIG事務局にはコールサイン・リストがあります。

これは一般に知られていますので、希望者のみに配布していますが、JAIGのホームページでもメンバーのコールサインを検索することができます。

個人情報の問題に絡んで、JAIGニュース発行の際には個人名や顔写真の掲載について注意が必要であることは、一般のメディアと変わりありません。

日本のJAIGグループは中嶋さん



↑JAIGの取得したコールサインは、相互に交信ができるように2つ取得。



↑今年のJAIGミーティングで見学した世界的に有名なフルダの大聖堂。パチカンからローマ法王が来て礼拝を行なうこともある。



(JA9IFF) の管理のもとにJL1ZYZというコールサインでクラブ局をもっています。それと同様にドイツでもクラブに対してクラブ無線局を持つことを許されています。

QSLカードでお分かりのように、2つのコールサイン、すなわちDLØDJFとDKØDJFです。

これは私達のグループは同時に2局が異なったコールサインでQRVできることを意味しています。そしてメンバーの希望があれば私の管理のもとに自由に使えるようにしています。

DARC、すなわちドイツアマチュア無線クラブ(ドイツのアマチュア無線連盟)では、地域クラブに対してそれぞれの分類符号を与えています。それをDOKナンパーと言います。

しかしそれらの地域クラブに属さない、私達のようなグループには、申請によって特別DOKが交付されます。QSLカードの中のSonder DOK DJFというのがそれにあたります。

異なるDOKと交信してQSLカードを集めることによって得られるDARC発行のDLDアワードを取得するために、この特別DOKの存在は貴重です。

●JAIGのロゴ

私達のグループにはロゴマークがあります。これができるまでのエピソードをご紹介します。

あるとき、ミュンヘン在住のメンバーが、とあるレストランで食事会を開いたとき、

→ JAIGの最初のモノクロームのロゴ(写真左)と立体的にしてカラーにした新しいロゴ(写真右)。いまでも状況に応じて使い分けられることがある。



当時ミュンヘン郊外にお仕事で来独されていた大西さん(JA3PE・故人)が「私達はドイツに居るからドイツのワッペンに似たような形にすれば」という提案をされました。そしてJAIGの文字を入れて、日本の花である桜とヨーロッパの12の星をあしらったデザインが考え出されました。それがモノクロームのロゴです。

その後アクセルシュバースさん(DG3IAD/7JIAOS)がアレンジして、カラーで立体型のロゴを作成してくれました。JAIGニュースにはこの立体型のロゴを表紙に使い一般に知られるようになりましたが、目的によっては平面画像のモノクローム・ロゴも使っています。

これを読まれてJAIGグループに興味を持たれコンタクトを持ちたいと思われた方は、事務局の私、DF2CW宛てにメールをいただけると嬉しいです。メールアドレスは、

df2cw@jaig.de

です。

最後に私事ですが、古代ギリシャの吟遊詩人ホメロスは「地上はすべての人のものである」と言いました。それなら

ば私達が使っている電波もすべての人のものであると言えます。電波は生きるために絶対的に必要なものではないかもしれませんが、国際交流、すなわち私達のモットーとしている国際理解を推し進める手段にこれ以上のものはないでしょう。私達はこれを大事に育て、有効に活用しなければならないと考えています。

ある新聞に「恩送り」という言葉があると書かれていました。恩返しが特定の人に対するものであるのに対し、恩送りは誰とも特定しない一般の人達を対象にした言葉だそうです。

戦後アマチュア無線再開当時から半世紀以上もの長きにわたって、すべての人が共有する電波を利用させていただいたことは、天が私に与えてくれた恩でした。私達の年代に生きるものに取っては、その恩を別の人達に送る労を惜しんではなりません。どのような形での恩送りになるかは人それぞれの置かれた事情により異なってくるでしょう。私の場合は外国在住ですから、当然の帰結としての国際交流を主とした活動に徹しなければならないと考えています。それがJAIGグループという形での私の「恩送り」なのです。

私も老齢の域に差し掛かりました。しかし可能な限りお世話をしたいと頑張っています。この記事を読まれた方々のご支援をよろしくお願いいたします。

【筆者プロフィール】昭和12年(1937)仙台に生まれ、中学時代にアマチュア無線再開を知る。高校のときにアマチュア無線局JA7HMを開局、仕事で東京に移住して主に7MHzでQRVしていた。昭和41年(1966)にドイツの会社で仕事を始めてからドイツのコールサインDJØVK(当時DJØのプリフィックスは外国籍アマチュア無線家に交付された)を取得。昭和59年にドイツ国籍を取得後ドイツのコールサインDF2CWを割り当てられた。



↑第1回目のJAIGミーティング。ワインの町ビンニゲンで開催されワインの女王様が私達を歓迎してくれた。

(Uebersetzung nur aus dem japanischen Haupt-Text)

Die JAIG-Gruppe wird 40 Jahre alt

Ich moechte hier die JAIG Gruppe vorstellen. Der Gruppenname JAIG ist eine Abkuerzung fuer Japanese radio Amateurs In Germany, also ein in Deutschland lebender japanischer Amateurfunkverein.

Wer schon lange in einem fremden Land lebt, wird sich Gedanken darueber machen, wie er sich mit seinen Landsleuten anfreunden kann. Oder waere es für diejenigen, die Erfahrung im Leben haben, nicht selbstverstaendlich, keine Muehen zu scheuen, um neuen Freunden zu helfen? Dasselbe gilt fuer die Welt des Amateurfunks. In diesem Geiste begann die Gruendung der Gruppe.

Die JAIG Gruppe ist offen fuer alle. Es hat nichts mit Nationalitaet, Sprache, Religion, Hautfarbe oder natuerlich Politik zu tun. Wir weigern uns auch, eine Getto zu schaffen, die zu einer Ansammlung von Vorurteilen werden kann. Es wuerde uns sehr freuen, wenn die Menschen, die wir durch unser gemeinsames Hobby Amateurfunk kennengelernt haben, miteinander interagieren und sich der Kreis erweitern wuerde.

„Gespraech“, das ist unsere besondere Faehigkeit. Nur so kann das gegenseitige Verstaendnis vertieft und ein Vertrauensverhaeltnis aufgebaut werden.

Vorgeschichte der Gruppe JAIG

In den 1970er Jahren expandierten japanische Unternehmen nach Deutschland und viele Mitarbeiter wurden nach Deutschland entsandt. Unter ihnen waren japanische Amateurfunklizenzinhaber.

Damals war Japan gegenueber auslaendischen Funkamateuren, die in Japan Funkstation betrieben, sehr verschlossen. Andererseits hat Deutschland eine umfassende Lizenz und da es die japanische Lizenz anerkennt, musste die Pruefung hier nicht wiederholt werden. Es war jedoch eine Zeit, in der es noch keine Computer gab und Dokumente fuer die zustaeudege Behoerde auf Deutsch verfasst wurden. Ich half, den in Deutschland lebenden Japanern die DL-Funklizenz zu erhalten.

Gruendung der Gruppe JAIG

Um 1980 erstellte ich eine Liste der japanischen Funkamateure in DL. Auf der Grundlage der von mir gesammelten Adresse fing ich an, sie zu kontaktieren. Es war die Aera vor dem Internetzeitalter, also ging alles per Post und es war eine gemaechliche Aera, die heute unvorstellbar ist. Die Nachrichten, die damals herausgegeben wurden, waren nur „Ankuendigungen“ und hatten keine Titel. Aus diesem Grund haben wir uns jedoch entschieden, dass wir uns alle einmal treffen wuerden und obwohl es im Februar 1984 ein sehr kalter Winter war, lag es geografisch in der Mitte Deutschlands. Wir trafen uns in der Weinstadt Winningen/Mosel bei Koblenz. Die Veranstaltung wurde durch die Sendung von der „Deutsche Welle“ in die ganze Welt uebertragen.

Ein Vorschlag, diese Gruppe bei diesem Treffen zu benennen, kam auf den Namen „JAIG“: was fuer **J**apanese radio **A**mateure **I**n **G**ermany steht. Der Pate war OM Butz (#079 DJ9WH), der fliessend Japanisch spricht.

In den fruehen Tagen waren die meisten Mitglieder Japaner, daher der Name JAIG. Aber heute nehmen auch viele deutsche Funkfreunde teil und obwohl die Anzahl fast gleich ist wie bei den Japanern, haben wir den Namen als symbolischen Namen nicht geaendert. OM Butz war uebrigens der einzige Deutsche, der am ersten Treffen teilnahm.

JAIG Gruppe-Aktionsprinzipien

Beim Schreiben dieses Manuskripts habe ich die JAIG News erneut gelesen. In ihrer 35. Ausgabe, als Bericht des 10. JAIG-Treffens, schrieb unser Mitglied OM Edgar (#081 DK9UA): "Wenn jemand eine Idee hat und glaubt, dass es eine gute Sache ist, wird er danach handeln. Unnoetig zu erwaehnen, dass es eine sehr gute Sache war. Und andere werden ihnen zustimmen und mit ihnen handeln. Natuerlich waere es eine sehr gute Sache gewesen, wenn es in 10 Jahren um das 20-fache gewachsen waere."

Seit August 2019 hat die Mitgliederzahl 600 ueberschritten. Ich denke, wir koennen dies als Zeichen des Erfolgs werten, was eine „sehr gute Sache“ war."

Seit unserer Gruendung sind jedoch etwa 40 Jahre vergangen und die Alterung unserer Mitglieder ist vorangeschritten.

Aktivitaeten der Gruppe JAIG

Um auf die Aktivitaeten der Gruppe JAIG einzugehen, muss ich zuerst ueber QSO - Runden schreiben.

JAIG Runde

Auf der Kurzwelle hat OM Igarashi (#089 JA1DKN) eine wunderbare Runde QSO uebernommen und jeden Sonntag ab 10:00 MEZ werden Rund-QSOs auf 21,370 MHz (wenn die Bedingungen schlecht sind QSY auf 14,310 MHz,) gehalten. Hauptsächlich QSOs mit JA und DL, aber bei guten Bedingungen koennen weltweit Verbindung durchgefuehrt werden.

Ausserdem konnten wir ab etwa September 2016 dank der freundlichen und zuvorkommenden Anleitung von OM Okano (#590 JF1CXH) ein internationales QSO-Netzwerk mit D-STAR aufbauen.

Dies ist auch jeden Sonntag, nachdem die HF-Runde endet, machen wir ab 11:00 Uhr MEZ ein Runde-QSO auf dem DCS-Reflektor DCS002Q. Dieses Netz wird von OM Fukuda (#528 JA1IFB) freiwillig geleitet.

Dieses moderne QSO-Format wird ueber das Internet gefuehrt und man kann sich immer bequem gut miteinander verstaendigen. Es hat sich so weit entwickelt, dass es jede Woche viele Freunde anzieht.

Herausgabe der JAIG-News

Unsere Gruppe JAIG veroeffentlicht unregelmassig, aber etwa viermal im Jahr „JAIG News“. Zum Zeitpunkt unserer Grueundung waren weder PC noch Internet weit verbreitet, also haben wir handschriftliche Nachrichten mit einem Kopierer gedruckt, in einen Umschlag gesteckt und an die Mitglieder verschickt, was heute undenkbar ist. Bis August 2019 hat JAIG News 141 Ausgaben veroeffentlicht.

JAIG News wird von der JAIG News Redaktion (zustaendig der Autor) gefuehrt und sowohl auf Japanisch als auch auf Deutsch herausgegeben und per E-Mail abgeschickt. Gleichzeitig moechten wir sie auch den Nichtmitgliedern anbieten, deshalb veroeffentlichen wir sie auf unserer Website von <http://www.jaia.jp> <http://www.jaig.de> Die Homepage wird uebrigens von OM Nakajima (#021 JA9IFF) und OM Ohori (#086 JR0DLU) in Japan und OM Thomas Schwant (#321 DH7TS) in Deutschland betreut. Darueber hinaus haben wir eine Mailingliste als weiteres Mittel zur Informationsuebermittlung fuer die Gruppe die von OM Ohori betreut wird.

JAIG-Treffen

Einmal im Jahr findet auch ein Treffen der JAIG-Gruppe statt. Dieses wird irgendwo in Deutschland unter Mitwirkung der Mitglieder organisiert und fand 2019 bereits zum 35. Mal im hessischen Fulda statt.

JAIG-Treffen wurden in Japan in den Jahren 2000, 2004 und 2010 abgehalten und es ist denkwuerdig, dass viele deutsche Funkamateure Japan besuchten und sich mit japanischen Mitgliedern anfreundeten.

Ausgabe von JAIG-Diplom

Seit 1990 verleihen wir auch das JAIG Diplom. Diese Auszeichnung hat zwei Klassen, Klasse1 ist fuer Funkamateure gedacht, die hauptsaechlich im HF-Band QRV, und Klasse 2 ist fuer Funkamateure gedacht, die Frequenzen ueber VHF verwenden.

Klasse1: Mit Klasse1 erhaelt man eine QSL, wenn man mit 5 DL- und 5 JA-Stationen Verbindungen hatte. Jedoch das Praefix muss unterschiedlich sein und die Station muss ein JAIG-Mitglied enthalten.

Klasse2: Man kombiniert die Buchstaben „DL JA FREUNDSCHAFT“ mit dem Rufzeichen - suffix. Einer von ihnen muss ein Mitglied der JAIG-Gruppe enthalten.

Dasselbe gilt fuer SWL.

Diese Diplommanager sind OM Nakajima (#021 JA9IFF) in Japan und OM Hans (#111 DF2MC) in Deutschland.

Mitarbeit bei der Gruppe JAIG

Wie Sie diesem Aufsatz entnehmen koennen, haben die Mitglieder der JAIG-Gruppe freiwillig Verantwortung fuer ihre jeweiligen Abteilungen uebernommen und die Gruppe

lebendig gemacht. Fuer die JAIG-Gruppe wird kein Mitgliedsbeitrag erhoben. Alle Betriebskosten werden durch Spenden gedeckt.

Ziehl der JAIG-Gruppe ist es, Freundschaften unter den Mitgliedern zu vertiefen. Die JAIG-News Redaktion hat eine Rufzeichenliste. Da dies allgemein bekannt ist, wird es nur an diejenigen verteilt, die sie anfordern, aber sie koennen auch auf der JAIG-Homepage nach dem Rufzeichen des Mitglieds suchen. In Bezug auf das Problem der persoelichen Informationen ist bei der Herausgabe von JAIG-News auf die Veroeffentlichung von Personennamen und Fotos zu achten, die die gleichen sind wie in allgemeinen Medien.

Die JAIG-Gruppe in Japan hat eine Clubstation unter der Verwaltung von OM Nakajima (#021 JA9IFF) mit dem Rufzeichen **JL1ZYZ**. In aehnlicher Weise duerfen Clubs in Deutschland auch die Clubstationen haben. Wie Sie auf der QSL-Karte sehen koennen, gibt es zwei Rufzeichen, naemlich **DL0DJF** und **DK0DJF**.

Das bedeutet, dass unsere Gruppe gleichzeitig zwei Stationen mit unterschiedlichen Rufzeichen QRV kann. Und wenn es eine Anfrage von den Mitgliedern gibt, steht es ihnen frei, es unter meiner Kontrolle zu verwenden.

DARC, der Deutsche Amateur Radio Club, gibt seinen regionalen Clubs einen eigenen Klassifizierungsschlüssel. Sie wird als DOK-Nummer bezeichnet. Aber fuer Gruppen wie uns, die nicht diesen regionalen Vereinen angehoeren, wird auf Antrag ein Sonder-DOK erteilt. Das ist der **Sonder DOK DJF** in der QSL Karte ausgedruckt. Die Existenz dieses speziellen DOK ist von unschaetzbarem Wert, um das vom DARC ausgestellte DLD-Diplom zu erhalten.

JAIG-Logo

Unsere Gruppe hat ein Logo. Lassen Sie mich erzaehlen, wie diese Form entstanden ist. Eines Tages, als sich die in Muenchen lebende Freunde in einem Restaurant getroffen haben, sagte OM Ohnishi(JA3PE s.k), der zu dieser Zeit geschaeftlich in einem Vorort von Muenchen war: „Wir sind in Deutschland, daher schlug er vor, dass es wie ein Wappen geformt sein sollte.“ Mit den Buchstaben JAIG wurde ein Design mit den japanischen Blumenkirschblueten und 12 europaeischen Sternen entworfen. Es war ein Schwarz-Weiss Logo.

Danach hat OM Axel Schwab (#246 DG3IAD/7J1AOS) –es arrangiert und erstellte ein dreidimensionales Logo in Farbe.

Fuer die JAIG News verwenden wir dieses dreidimensionale Logo auf dem Deckblett. Dadurch wurde es allgemein bekannt, aber je nach Anlass verwenden wir auch ein Schwarz-Weiss Logo, das ein zweidimensionales Bild ist.

Wenn Sie dies lesen und sich fuer die JAIG-Gruppe interessieren und mit uns Kontakt aufnehmen moechten, senden Sie bitte eine E-Mail an mich, DF2CW. Ende

JAIG-Mitglieder – Rufzeichenliste

JAIGメンバーのコールサインリスト

(Stand Dez. 2022、2022年12月現在)

001 Matsumura Hajime	DJØ0UL,JA1SC	074 Kaneda Mikio	JA7VR,DL/JA7VR
002 Kumagai Katsuhito	JA1MCZ,DJØLV	075 Suzuki Teruo	JH7DEA,DL/JH7DEA
003 Osabe Kunihiro	JA1OLT,DJØVX	076 Terashima Takehiko	JE7MBN,DL/JE7MBN
004 Nickel-Kayano Kaeko	DK9QZ	077 Notz Silvia	DL5SCC
005 Uetake Mamoru	DJØ0QQ,JH1GSN	078 Notz Achim	DG4SAB
006 Kawai Teruo (silent key)	JA1BCN,DJØZU	079 Butz Bertin	DJ9WH
007 Kudo Kenju	JA7SOQ,DL/JA7SOQ	080 Jungwirth Siegfried (silent key)	DK6PK
008 Yamane Kunihiro	JA4AES,DD5DN	081 Morrison-Cleator Edgar	DK9UA,7J1ADW
010 Hara Shuzo (silent key)	JA3BAG,DL/JA3BAG	082 Kress Dieter (silent key)	SWL
011 Sugiyama Masa'aki	JA1OYP,DJØSI,T88XX	083 Rietmueller Christina	DL2GRC,DG1GRC
012 Hatomoto Shoichi	JA4OAE,DD5GJ	084 Endo Kiyoshi	K4ST,DL/JAØBSL
013 Muroga Yu'ichi	DL1FYM,JA3XKJ,DJØYM	085 Baer Albrecht	ZL1ABI, DL6DCH
014 Muroga Midori	DD5CM,JA3SNE	086 Ohori Tadashi	JRØDLU,DL/JRØDLU
015 Ogawa Kyohei	DJØFN,JR1UTX	087 Tuerk Joachim (silent key)	DJ8MA
016 Nagakura Masami	DJØER	088 Maruyama Shun'ichi	JE1NWL,DJØMBG
017 Knoerle-Matsuzaka Yayoi	DJØSC	089 Igarashi Shigeru	JA1DKN,DL/JA1DKN
018 Iki Kunihiro	DF2CW,JA7HM,(DLØDJF)	090 Kobayashi Akira	JAØHPC,DH/JAØHPC
019 Sogabe Mikio	J11JMQ,DJØID,JA1WNL	091 Himuro Koji (silent key)	JA2RM,F/JA2RM,JA4HL
020 Ohashi Hideyo	JH2PKO,DD5GO	092 Kato Yoshikazu	JG1PGJ,JA7EUK,LX2AA
021 Nakajima Yasuhisa	JA9IFF,DJØKE,(JL1ZYZ)	093 Ohbo Hiroshi	PA7AA,PA3FHA,JR1XRC
022 Nakajima Noriko	JQ1NRO,DD5EF	094 Kasamatsu Yoshio	SMØHEG,JA3DHZ
023 Komatsu Toyoaki	DCØFM,JAØCQP	095 Yamada Minoru	SMØNQS
024 Ishii Hiroshi	DJØBW,JA1HNN,DD5GI	096 Yoda Akitsugu	SMØPBC
025 Hara Shozo (silent key)	JA1AN,DL/JA1AN	097 Ahlqvist Yuriko	SMØRQA
026 Tsuchiya Toshio	JR1HJS,DL/JR1HJS	099 Nawrocki Bernd	DF2YH,ZS6BPU
027 Tsuchiya Keiko	JM1LJX,DL/JM1LJX	100 Morrison-Cleator, Ian	DB7IU
028 Oka Ikuo	JH3CLX,DL/JH3CLX	101 JAIG-Clubstation	DLØDJF
029 Ishibashi Yu'ichi	JH3OHL,DL/JH3OHL	102 Kube Waldemar	DL2OC
030 Nakayama Mikiyasu	JR1SWB,5Z4WB	103 Nishida Hiroshi (silent key)	JE2AIN,DL/JE2AIN
031 Arakawa Taizo	GWØRTA,DL/JA3AER	104 Csar Siegfried	OE6CSD
032 Yonemura Tachio	JA1BRK,DL/JA1BRK	105 Sato-Weiss Noriko	OE1YOB
035 Sugimoto Kenji	JG1GWL,VE3KSJ	106 Matsunaga Yoshihiro	DL1YM,DJØACY,JA1RDW
036 Atsugi Isao	DCØJH,JR1ICU	107 Ogasa Johnnes	DJ6PO
037 Iwasaki-Butz, Mieko	DJ7KJ,JN1UUJ,7K3NLK	108 Gerlach Guenter	DF9ZN
038 Murai	DCØFW	109 Detmers Dieter	DH1BAI
039 Murakami	JE1OHO,DC/JE1OHO	110 Kitahara Tsutomu	JAØDBQ,DJØHA
041 Miyamoto Takashi	JA1SKY,DJØQN	111 Graf Hans	DF2MC
042 Kimura Tatsuhiko	DJØWU,JR3PZW,JA1ADU	112 Kitamura Yoshihiko	JE2LMM,FD1RDC
044 Iguchi Koichi (silent key)	DJØCT,JAØNK,ON8YA	113 Sasaki Kazuhiko	J13DCF,DCØHR
049 Murakami Mitsuru	JH3FNC,GMØNJP,JJ1MXR	114 Schoenherr Bernd(silent key)	DL8JAB
050 JAIG-Clubstation	DKØDJF	115 Schoenherr Maja (silent key)	DL8JQN
051 JAIG-Clubstation	JL1ZYZ	116 Brenner Walter	DJØFX,JE1MRX,JD1BMB
053 Miyake Shoji	JA6EGL,DL/JA6EGL	117 Tsurumi Kazunori	DJØOQ,JH2BCR
054 Imano Keiji	DJØAAD,JA3MOB	118 Kawamoto Kazuya	JA3BRW,GØMYB
055 Nakano Kazuo	JA3LIL,DJØMBB,AF6ZP	119 Ochiai Yukinori	JA4KQG,GØNTK
061 Umeki Toshio	JH7KJJ,DJØMBY	120 Sato Ryosuke (silent key)	JAØBUA,G4YHC
063 Ohta Kanji	DJØHY,JA4MBR	122 Maruyama Keiko	JM1SWN,DJØMDU
064 Ihara Nanako	J11VLV,DL/J11VLV	123 Geier Karl-Heinz	DC8YY
065 Morrison-Cleator, Sumiko	DD5FR	124 Ohnishi Shinji (silent key)	JA3PE,DJØTQ
066 Matsuoka Yoshiki	JF1SAG,FE1MUY	125 Sasaki Mayumi	JQ3MGZ,DD5CI
067 Okubo Akira	JR1KWR,GØLHB	126 Lux Ulrich	DF4IJ
069 Yagura Hiroshi (silent key)	DL/J16KHA	128 Schulte Burk. (QTH Unbek.)	DG3BDJ
070 Aoki Satoshi	JH1LPF,IK2RW	129 Schob Wolfgang	DG5DBT
071 Aoyoshi Naofumi	7N3EVP,DJØAAV,JH1PKN	130 Folger Henning	DL6DH,DH4DAE
072 Yamamoto Yasuomi	JE1TGN,DL/JE1TGN	131 Pflaumbaum Georg(silent key)	DF1CZ,7J4ACF
073 Katsuki Takeshi	JA6EV,DL/JA6EV	132 Blizil Guenter	DG3EAW
		133 Fichtner Olaf	DL7UND,7J1AIT
		134 Bassmann Christian	DL7QW,DC6QO
		135 Wriedt Klaus	DL4LI

136 Kawai Shoichi	JA1PE,F/JA1PE	198 Spereiter Gerd (silent key)	DG1EHR
137 Balzer Werner	DG4EKI,DE1WBD	199 Cierpka Gerhard	DJ6DO,DHØDAC,SO9DO
138 Diel Willi	DJ2JD	200 Schmuecker Hellmut	DK5ML,7J1ADB
139 Scherer Thomas	7J1AIJ,AA8NN,DL8SEQ	201 Wagner Sven	DE1SVE
140 Naguro Kazufumi (ausgetr.)	DL6FDB,PA3GKW,JA11ST	202 Ludwig Rainer	DL1DTN, 7J6AAO
141 Kawamura Masao	JA3GUY,G0OPW	203 Koyama Hirofumi	JP1LPH,DL/JP1LPH
142 Grube Thorsten	DG8DBQ	204 Sugitani Masami	JA9BFM
143 Forst Hans (silent key)	DF4WW	205 Ernst Elmar	DG7YEO,DE1YEO
144 Weber Erwin	DL1KEW,DG5KBE	206 Sakurada Yoichi	JP1NWZ,PA3CXC,V29Y
145 Erbar Erich (silent key)	DL9VN	207 Imaeda Masayoshi	JH2GHV,DJØQM
146 Schnitzlein Egon	DL9GZ	208 Yamamoto Takashi	DL5MGM,JR2BBR
147 Graef Manfred	DF1PJ	209 Berger Andreas	DL1YCG
148 Mayer Henry (silent key)	DH2PAX	210 Sato Shun (silent key)	JAØKG
149 Rietmueller Holger	DL8SCU	211 Yoshinuma Katsumi	JA1NVF,DL/JA1NVF
150 Yokota Ninoru	JA1HIS,DL/JA1HIS	212 Inoue Hiroshi (silent key)	JL1EEE,VK2CEB
151 Senda Naohiko (Silent key)	JA1MYW	213 Yoshino Masaaki	JJ1UAP,DL/JJ1UAP
152 Schmitz Alfred	DJ5JO	214 Guenther Hans Peter (silent key)	DL9XW
153 Hielen Brigitte	DH6JV,DG1EHB	215 Sato Masahiko	JA8FTW,DL4SEN
154 Welz Martin	DH1FBQ,DG9ZY	216 Geerken Horst	DJ4SM
155 Welz Johannes	DG9ZU	217 Arakawa Yoko	JG3FAR
156 Shiozaki Akira	JA3DO,KD2YH	218 Miyazaki Suzuko	JK6VLO
158 Togashi Shoichi	DH/JR7IAF	219 Braun Irene	DL6GBI
159 Sato Masamitsu	JA7CIY	220 Braun Bodo	DF7UB
160 Todoriki	J11LNP	221 Riefler Michael	DG1GRM
161 Miyazaki Yoshitaka	JK6RWM,G0RJW,HB9IAR	222 Richter Kai	DG5YGI
162 Kanda Susumu (silent key)	JK1SDQ,DL/JK1SDQ	223 Weiss Markus	OE1MWC
163 Nishikawa Naomi	JK1BFA,DC/JK1BFA	224 Ohyama	JJ1DSB
164 Clubstn.-Kloeckner AG	DLØKHD	225 Spoerl Bernd	DHØJAA
165 Mueller Hermann	DL9JW	226 Dittrich Andreas	DL6AE
166 Schottler Udo	DG6LAU	227 Kern Iris (silent key)	DK3EP
167 Schwarz Hans	DK5JI	228 Rosskamp Michael	DJ5JE
168 Maeda Yuji	JE2KSM,DJØMEE,	229 Minamizawa Kiyoshi	JAØFMU,GØRPB
169 Kube Ilse	DG3SI	230 Speiser Dieter	DJ1YG,7J1ABR
170 Klinsky Peter	DJ9JP	231 Rufzeichen zurückgegeben	
171 Triemer Ronny	DK4UN,DL4JTN,Y48GN	232 Braun Werner	DL1SEW
172 Guenther Heinz (silent key)	DL2JON,Y22ON	233 Ullrich Werner	DJ4SG
173 Dieter Anne	DL2GRA	234 Wiedl Hartwig	DG2GWH
174 Riefler Siegfried (silent key)	DG1GRS	235 Suzuki Tsuneo	DJ7GT,KD6KVC,7L1UZU
175 Riefler Gertrud (silent key)	DH0GRG	236 Siromahov Shteryu,Angelov	LZ3QS
176 Tsujioka Toshikazu	JM2CYQ,F/JH2LYQ	237 Siromahov Angel Mihov	LZ1AI
177 Murai Hiroshi	JA1AQX,F/JA1AQX	238 Siromahov Penka Shtere	LZ1PE
178 Rosenberg Wilhelm	DK5OC	239 Stichmann Klaus	DL5DCK
179 Kiewitz Erna (silent key)	DL1PT	240 Birr Hans-Werner	DH2YAY
180 Kiewitz Kurt (silent key)	DL1PK	242 Tsukamoto Mamoru	N2JA,JA1ANE
181 Akagawa Hirota	JN1SPR,DL/JN1SPR	243 Fujita Nobuyuki	WB1Y
183 Iwakura Noboru	HB9LEY,JA1LZR,N2AIR	244 Miyagi Takashi	JR1CNO,N2BHY
184 Paul Gerhard (silent key)	DF6SW	245 Diedrich Horst (silent key)	DG8DAT
184 Paul Irene (silent key)	SWL	246 Schwab Axel	DG3IAD,7J1AOS
185 Kozma Andras	HB9TIM, HG1DDO	247 Noma Shoji	JA5AXO,VS6ED
186 Goko Susumu	JH1BRC,DL/JH1BRC	248 Jost Juergen	DB9ZX
187 Goko Hiromi (silent key)	JQ1TDJ,DL/JQ1TDJ	249 Gotschy Juergen	DL6ZBD
188 Ohtake Takeshi (silent key)	KL7YR	250 Kilb Gerhard	DJ4UR
189 Salder Andreas-Chr.	DK5ON	251 Hackel Dieter (silent key)	DL6FCW
191 Takahashi Hiroshi	JF1MJO	252 Hackel Frank	DL6FCX
192 Landgraf Wolfgang (silent key)	DL9HC,7J1AJY	253 Hohmann Frank	DL5FCV
193 Seidensticker Jens	DG8YGJ	254 Tsuji Noriaki	JM1HKF,DG5FEA,
194 Hiroshima Takayuki (silent key)	JA1BNW,W1BNW,PY2ZTH	255 Tsuruta Korin	ZL2PGJ,7L2PGJ
195 Yoshinari Masashi (silent key)	JAØAW,BT4AW	256 Rossmann Markus	DG7SEU
196 Ball Thomas	DG9EAF	257 Mahler Heinz	DK3HM,DG3FAM
197 Takemori Norio (silent key)	JA1VC,DL/JA1VC	259 Herr Antonius (silent key)	DL8FCB

260 Tsuji Akiko	JN1MPK,DG4FEA	321 Schwant Thomas	DH7TS,DD6UTS
261 Buersmeyer Hans	DL3NT,DA1NT	322 Heimberger Ralf	DD6UDS
262 Kuhn Clemens	DL1FUN,DH5FBA	323 Heyne Jens	DL7UMA
263 Gaida Robbin (ausgetr.)	DL3EER,DG1EBF	324 Metzdorf Theo	DK4FR
264 Nakagawa Hiroaki	JN1GRR	325 Boehme Siegfried	DL1JBI
265 Motyka Franz (silent key)	DL9EY	326 Schickel Peter	DGØJT
266 Lierath Burkhard	DL7TR	327 Perkuhn Petra	DG9DBF
267 Jaergen Stephan	DE1VTM	328 Schlettig Siegfried	DL3VZL
268 Schram Michel (silent key)	LX1MS	329 Fritsch Heribert (silent key)	DL8HF
269 Uselding Anne	LX-2000	330 Engel Thomas	LX1WP
270 Storm Rainer	DG7LAL,7J1ALW	331 Stuhldreier Ralf	DL6EG,DD1JAO
271 Aoki Takashi	DG6EKG,JQ1NFY	332 Meiritz Ulf	DD6ULF
272 Ebisawa Masayoshi	JA1DM,DL/JA1DM	333 Rufzeichen zurückgegeben	
273 Gayk Karl-Heinz	DL2KHG,DH5JR	334 Toepfer Karl (silent key)	DL1JKT
274 Rock Karl-Heinz (silent key)	DL2SDE	335 Schneider Juergen	DL1JHQ
275 Egami Akira	JS3QVM,DC/JS3QVM	336 Barthels Eike (silent key)	DM3ML,DL2DUL
276 Dargel Gerd	DJ5TT,DKØW	337 Moeckel Ulrich	DH 7WW,DGØJAG
277 Komatsu Tomomi	JH2WDT	338 Sakayori Mikio	G7UER,7M2CDE
278 Berens Ulrich	DJ2UB	339 Ohki Akihiro	JA2DSF,DL/JA2DSF
279 Reitzer Helmut jun.	DEØHRJ	340 Ohki Ikuko	JG2URX,DL/JG2URX
280 Ohashi Hideo	JQ1KMF,DH/JQ1KMF	341 Ikeuchi Osamu	J11HUC,3V8BB
281 Ballak Kai-Erik	DG2IAC	342 Tanigome Mikio	JA2PDQ,3V8BB,9J2MT
282 Takei Masanori	JG3UOB	343 Okuda E'ichi	JA9LJI,F/JA9LJI
283 Moestl Heinrich	DDØZL	344 Wieland Karl-Martin	DL1ZU,KGØVD
284 Amstutz Torsten	DG3FEN	345 Hardt Renni	DK6VV
285 Amstutz Alex	DE8JLT	346 Polcyn Gerhard	DL7PI,DH7ADX
286 Arakawa Ken'ichiro (silent key)	VK2IAZ,JS1DLC,N2IEB,	347 Polcyn Edith	DC7PN
287 Juchemes Jean-Marie	LX1JH	348 Brueck Michael	DL4FCF
288 Sunouchi Tateshi	GØWND,JA1FNO,NV2N	349 Loidl Brunold	DG1EEO,OE3BLA
289 Steinbach Johannes	DL2JST	350 Nestler Bernd Dr.	DL4NDV,7J1AQU
290 Renner Harald	DL8ZBA	351 Dintelmann Peter	DL4FN
291 Matsuoka Teruo (silent key)	G7RMR,JA3BUQ	352 Tanaka Minoru	JG1QQE,DH/JG1QQE
292 Inomata Norio	JF1NHD,GØTKS,N3PDU	353 Tanaka Miyoko	7N1PEN,DL/7N1PEN
293 Nasu Tamotsu	JE1DER	354 Uchibori Tetsuo	JA1IRT,DL/JA1IRT
294 Ohta Masatoshi	JH1FNS,9V1WE,GØCEO	355 Ucibori Tazuko	JO1EIE,DL/JO1EIE
295 Mayer Mike	DG4FEK	356 Christ Jochen	DL4KBB,7J1AJV
296 Gillrath Adolf (silent key)	DF3WU	357 Wrzalik Mike	DHØKW,DG1KWM
297 Gillrath Edith (silent key)	DF7WU	358 Mori Takeshi	JR2ITB,CN8TM,
298 Welling Hans	DJ4PG,JH1ZXW	359 Mikami Noboru	DL3ENM,JA1PJL
299 Ota Ken	JM1NCA,F/JM1NCA,VU3OTK	360 Bohlig Jochen	DL2FJ
300 Hackel Heidi (silent key)	DG8FDJ	361 Ohori Hiromi	J1ØSBR
301 Gitschel Juergen	DL1JIU	362 Yoshida Sakae	JS3CEQ,DH1AAB
302 Renner Jutta	DC8FY	363 Adamo Dieter	DH4PAG
303 Washizaki Sunao	JA6XLW,DL1EMO	364 Adamo Marga	DD3WX
304 Flakowski Fred (silent key)	DL6QA	365 Snyder Christine-Sumiko (silent key)	KB8VA,
305 Gruender Anne	DJ7DM	366 Koehl Manfred	DH7MW
306 Mueller Ingrid (silent key)	DD8EF	367 Koehl Ursula (silent key)	DF2VM
308 Koch Siegfried	DH2DAS	368 Kawatsu Izumi	DL/7K1OUO,7K1OUO
309 Yoshizumi Noriyuki	JH6NHE,DL/JH6NHE	369 Oizumi Sachiko	DL/7M1HDU,7M1HDU
310 Miyamori Kazu	JA1CMD,W4/JA1CMD	370 Takagi Chieko	DL/JO2FQK,JO2FQK
311 Padberg Veit	DG7DBN	371 Westhoff Jens	DD6UWT(Rufz. Zurueck)
312 Washizaki Mitsuko	7M2DGU, DHØEAO	372 Grubba Michael	DD6UAA
313 Yamaguchi Ken'ichi	JA6TIT,WZ1A	373 Masutani Kunihiro	DC4MAS,JA4WN
314 Kruistum Peter van	NL-7909	374 Noda Takashi	DL/JA1FY,JA1FY,AD6ZW
316 Bruchmann Willi	DL2PZ	375 Brusendorf Eleonore	DG1BRT
317 Cordes Hans (silent key)	DJ4AZ,DE12381	376 Nara Keinoske	DH2NBK,JP1HIS
317 Cordes Gerti	SWL	377 Nara Yoshimi	DG2NGM,7M3RZO
318 Doucha Mlados	OK1MD,OK1PEG	378 Takeda Tetsuo	DHØFAR,JQ1JBG
319 Kratoska Martin	OK1RR	380 Fuji Ei'ichi	IZ2AHI,JG1TCG
320 Schmitz Nicole	DE1NIC	381 Miyagawa Masumi	JL6PNU

382 Ogawa Kaneko	JN2WHR	442 Matsumoto Toshihiro	JR4IMT
383 Yamada Chizue	JA1EYL	443 Drexlerova Dana	OK1XDD
384 Senda Hayato	JA1CPK	444 Clubst. OV Berlin Mitte	DFØBLM
385 Iyori Atsuko	JJ1NUI	445 Sugo Megumi	7M4VMV
386 Igarashi Kazuko	JF1QGZ	446 Fujiwara Miyako	SWL
387 Kato Tokuzo (silent key)	JA1QGT	447 Shimamoto Mac	JA3USA,WA3USA
388 Oizumi Hiroshi	JM1DNV	448 Okada Kazuhiro	JG1QZW
389 Tsuji Yorimasa	VE4ACX	449 Olderdissen Alexander	DO1YAO
390 Matsumura Hideo (silent key)	JF1GJU	450 Geier Christel	SWL
391 Takahashi Hiroko	JK1CLX	451 Pilgrim Petra	DF5ZV
392 Hattori Masafumi	JG3STV,N2CAO	452 Pilgrim Uwe	DL2FDD
393 Galle Heidi	DK4WH	453 Marquardt Sascha	DO1YSK
394 Galle Wolfgang	DF4WG	454 Wolf Hartmut	DF2PN, DE3HWL
395 Pareigat Willfried (silent key)	DD6UMW	455 Antrup Hans-Otto (silent key)	DL1PO
396 Hoshi Kouji	JQ1HBT	456 Barnekow Bernd	DL3FAF
397 Jacobs Gerda	DL5ØBK, OZ5ØBK	457 Lember Bodo	DD1FX
398 Draws Uwe	DH2PC, DB6PE	458 Edgar Most	DJ6DN
399 Hettler Karl-F. (silent key)	DC2FI	459 Tanaka Makoto	JR1NHD,9V1ZW,AA2DI
400 Hettler Elli	DD3FZ	460 Yamaguchi Akira	JA1PTI,WB2ZTB
401 Heritsch Juergen	DL2CHN	461 Takehara Koji (silent key)	JA3GMI
402 Mitamura Masashi	JA9KBU	462 Claussner Gregor	DO4CHP
403 Tanuma Ken	JA8CDG,JA8CDG/ZC6	463 Loebel Mike	DM1CML
404 Pareigat Monika	DN6MP	464 Schwab Olaf	SWL
405 Kimura Kei	JG1GGF,GØ/KM7M	465 Skulimma Jack	DO1BJS
406 Sato Yuzo	JA2GFL	466 Ishino Hideo	JA1IKA
407 Miyamura Kazuo	JA8WPP,JG8ITV,P29KM	467 Watanabe Toshikazu	JN1GEW
408 Lauer Heinrich	DC3WC,DE8HLA	468 Oka Toshihiko	J12TKX, MØCER
409 Manz Hans-Juergen	DD6JM	469 Antony Thomas	DK4TC, DD6CP
410 Roesner Gaston	DD6UGR,DL9TZ	470 Satake Yasuo	JA2SWH,4S7YSG,JA1GAF
411 Berard Guenter	DK6KG	471 Holzknecht Martha	DB5HM
412 Mondon Dietmer	DH2SCA,7J1ARC	472 Lippe Roland (silent key)	DO5WR
413 Malkus Manfred	DH1MAM	473 Kaden Marcus	SWL
414 Shibata Hiromi	JA6FWJ	474 Tsutsumimoto Masami	JG1AFE,XE1IQZ
415 Nishima Teruaki	JA3QUU,K3QU,L/JA3QUU	475 Rupprecht Stefan	DC7JSR
416 Clubst. OV Nierstein-Oppenh.	DLØANO	476 Brueckmann Konrad(silent key)	DG8FAY
417 Degler Hans-Christoph (silent key)	DL3KBB	477 Dressel Rudolf	DB7NW,OK8ACA
418 Erat Stephan	DH2ES	478 Kuehne Peter	DL7JPK
419 Noda Fumio	DJ1FSB,JA0FSB	479 Wiefelspuetz Eva	DL8ZBE
420 Koch Erika	DN2MCW	480 Wiefelspuetz Fritz (silent key)	DL6FC
421 Miyoshi Jiro (silent key)	JA3UB	481 Walter Erwin	DL7EL,DC7BT
422 Miyoshi Kyoko	JR3MVF	482 Petke Frank (silent key)	DL7DL,DG4AO
423 Ulbrich Egon	DL8UET	483 Shibue Syouchi	JG1NQO
424 Ulbrich Elvira	DGØUET	484 Ehling Bruno	DH8MAU
425 Cierpka Malgorzata	DE1MCH	485 Oltsch Peter	SWL
426 Franck Walter A.	DE0WAF	486 Elksnat Christa	DJ1TE
427 Uchikawa Kunio (silent key)	JA1FCT	487 Ikegami Hirokazu	DL2JV,JA1SJV
428 Kunikiyo Hiroshi	JR4JXG	488 Ruempel Eckart	DM4TNF
429 Fukuda Rimmei	MØCFF,JG1VGX	489 Saitou Takehiko	BW2/JE1IJL,JE1IJL
430 Fujii Tadao	JHØJPF	490 Engel Waldemar	DL8KAC
431 Nishiyama Kohei	JRØBAQ, EI8JC	491 Tomisawa Iwao	JA7ANQ
432 Giesemann Herbert (silent key)	DL2FAR	492 Yamamoto Tetsuo	JA3PYC,JA9FFN
433 Kurio Yasuhiro	JA3ECR	493 Kawai Shinzaburo	JA1FUU
434 Nishi Akira	JK3IYB	494 Miyamoto Sei'ichi	JE3BEQ
435 Ebihara Kazuo	JA3ART,N3JJ,T88JJ	495 Kawata Yoshihiro	JP3AZA
436 Kishida Hideo	JN1VYH	496 Miura Toshiyuki	JA3CZY
437 Shima Isaji (silent key)	JA3AA	497 Funaki Takeshi	J13DST
438 Inui Hideo	JA3BOA	498 Sugiyama Akira	JA3AOP
439 Goto Taiei (silent key)	JH3GAH,V85TG,9M8TG	499 Shimotsu Tomio	JO3LZG
440 Pasch-Wriedt Gertrud	SWL	500 Inui Hiroko	JH3CIB
441 Tsurumi Yukio (silent key)	JP2EUD	501 Baba Hideo	JA4HCK

502 Makino Takashi	JA1AEC	560 Vogelsang Jürgen	DL1JAC
503 Matsushima Sadao	JA1OYX	561 Hamperl Steffen	DM6WAN
504 Marx Wolfgang	DL4WP	562 Reimesch Christian	DL2KCK
505 Ebert Matthias	DL7WS	563 Pecka Oldrich (silent key)	DL3BMX
506 Winde Bodo (silent key)	DB7HB, 9H3BW	564 Yoshida Shigeru	JM8BGQ
507 Nickel Klaus Peter	DO3LKP	565 Ueda Moto'o	DJ4PXC/JA4PXC
508 Jacobs Joachim	DJ7TA, OZ1HQR	566 Bansner Emiko	DL3BEB
509 Ulin Raija (silent key)	SMØHNV	567 Bansner Eckardt (silent key)	DO2BE
510 Kawano Shun-ichi	JR4PMW, 9M2KE	568 Glunz Berthold	DB1BG
511 Koch Ingrid	DL1MAO	569 Matsubayashi Sadao	JA3JIL
512 Riewe Günter (silent key)	DG2YEL	570 Tomanik Manfred	DB4ZZ
513 Bassmann Arianne	DN6QO	571 Fukushima Seiji	JH6RTO, M0RAA
514 Bletterer János	DL7AOJ	572 Rothe Martin	DF3MC
515 Sakemura Shinji	JG1BUF, NL7T, JA6ETQ	573 Schneider Tobias	DL2TOS
516 Herrmann, Guenter	DM1GH	574 Neumann Peter	DL1PN
517 Hallier Peter	DF2PH	575 Sekido Yoshiji	MØOEY/JJ1OEY
518 Gütschow Waldemar	DK6OX	576 Maas Maggie	DL4TTB
519 Orthmann Georg	DD6NT,9H3WO	577 Kusaka Teruo	JA1RTS
520 Graf Mitsuko	DN2MC	578 Rikuna Kenji	JA1RZD
521 Holbrook Len	VK8DK	579 Nakamura Hiroo	JA6EMA
522 Okada Kuniaki	JA1CVF	580 Maitre Ulrich	DL1OO
523 Geering Ruth	IT9ESZ,HB9LFM	581 Zscharn Christian	DL1MCG
524 Schumacher Olga	DJØMCL	582 Schneider Ralf	DO1KRS
525 Morita Shin'ichi	JA6SOV,JA1DDF,JJ8GHA	583 Yamaguchi Teruhisa	JH1DLD
526 Rosentritt Daniel	DL7NDR	584 Schroeder Christian	DG5BKA
527 Glassmann Christian	DF4UN	585 Schwitalla Bernd	DL4BQ
528 Fukuda Hiromichi	JA1IFB, KA1Z	586 Okamura Junichi	JF1RWZ
529 Hase Kenshin	JH5NUW	587 Mashiko Noboyuki	7N3TOC
530 Neuser Bernd	DK1HI,DE1BNE,DK0DBP	588 Watanabe Takeshi	JO1USI
531 Schickel, Heike	DE1JTH	589 Chikamoto Teruo	JA6AWI
532 Andresen, Axel	DB7XO	590 Okano, Toshiro	JF1CXH, KJ6JAT
533 Nagasawa Hiroyuki	7K1PYG	591 Yamauchi, Takahiro	7K1BIB, AC1AM
534 Panta Bholu Raj	JA2GPC,AA3XW	592 Maeda, Yoshimi	JH1XUP
535 Furukawa Yuzo	DO6JF, JJ3TLA	593 Meissner Ralph	DK3GH, HSØZFL
536 Fischer Peter (silent key)	DF7AA	594 Shimizu, Masaki	DB1JPN, JFØWBW
537 Tojo Jun'ichi	JH3AEF	595 Nagayama, Satoshi	JR2PAU, MØPAU
538 Hirota Akihide (silent key)	JO3BPV	596 Kuzuhara Shigeru	J11OBJ
539 Hioki Takashi	JF1GUQ, KA8J	597 Koya Tadafumi	JF1AKJ
540 Hirano Masaru	JA1XVY,NI1J	598 Protze Karl	DL7KK
541 Nakayama Hisashi	JA1KJW,AK0J	599 Leuze Rudi	DH4FBW
542 Tokura Noriko	7K3EOP	600 Nagai Mika	JP3EGR
543 Inoue Kiyo	JL1XWR	601 Koiso Mitsunobu	JH1UNS
544 Kamiyama Kenshiro	JA1DCY,KS2U	602 Kasamatsu Koichi	JR1MLT, DJ9KK
545 Ichinose Yoshinori	JJ6WZS	603 Moto Masato	JH1BLT
546 Ogasahara Junji	JH3KHR	604 Watanabe Daichi	JH1VDM
547 Dauer Carsten	DM9EE	605 Tanemura Ichiro	JG2GFX
548 Umemoto Masao	JR3XMG	606 Kipp Sebastian	DL5WN
549 Ohki Shizuka	JA3RTU	607 Saitou Yoshifumi	JF6CCI
550 Muto Hatsumi	J11JRE		
551 Hartmann Hans	DF5AN		
552 Flügel Monika	DO6MF		
553 Krüger Wolf	DL1CC		
554 Balzer Peter	DJ6GL		
555 Schlink Walter (silent key)	DL3OAP		
556 von Grote Thomas	DB6OE		
557 Tanabe Yutaka	JA1OGX,KHØS,PA9AAN		
558 Weinert Veiko	DO9TT		
559 Yabana Takao	JAØBZC		

JAIG - Treffen Veranstaltungsort、 JAIG ミーティングの開催地

Jahr	Veranstaltungsort	Jahr	Veranstaltungsort
1985	Winningen / Mosel	2020	ausgefallen
1986	Winningen / Mosel	2021	ausgefallen
1987	Winningen / Mosel	2022	Veitshoechheim bei Wuerzbg.
1988	Denzlingen bei Freiburg Bg.	2023	Coburg
1989	Winningen / Mosel		
1990	Bietigheim		
1991	Winningen / Mosel		
1992	Hechingen		
1993	Bad Homburg / Taunus		
1994	Winningen / Mosel		
1995	Oberwiesenthal / Erzgebirge		
1996	Diessen am Ammersee		
1997	Schmitten im Taunus		
1998	Gosen bei Berlin		
1999	Regensburg		
2000	Japan (Tokio)		
2001	Koblenz-Guels		
2002	Leipzig		
2003	Gosen bei Berlin		
2004	Japan (Osaka)		
2005	Sebnitz		
2006	Berchtesgaden		
2007	Koblenz-Guels		
2008	Bergkirchen bei Dachau		
2009	Freyburg		
2010	Japan (Osaka)		
2011	Goslar bei Hannover		
2012	Chemnitz		
2013	Nierstein		
2014	Farchant bei Garmisch-P.		
2015	Aachen		
2016	Erlangen		
2017	Waldkirch bei Freiburg Bg.		
2018	Deggendorf		
2019	Fulda		

